

TN さんのお母様の手記

私は妊娠7ヶ月のとき、胎児エコーをしていると「心臓の部屋が3つしか見えない。。。」と言われ詳しく見てもらったほうがいいとこども病院へきました。その時にお腹のこどもの病気「単心室」がわかったのです。産む前に病気がわかった事は本当に良かったと思います。今、こうして毎日横で一緒に寝て起きて、抱っこして、おっぱいあげて・・・とあたり前の生活ができることは、生まれてすぐに治療ができたから。私達も「生まれたらこういう治療をします。」と説明をうけていたので心の準備もできました。

でも、やっぱり病気だと分かってから、毎日本当に考え、悩み、辛くなり、泣く日々で、朝起きるたび「悪い夢からさめたい！！」と願っていました。今振り返っても、言葉では表せられないくらい毎日が地獄のような日々でした。病気を持ったこのよに生まれたきた我が子を見て、「自分はどうして元気な体で産んであげることができなかったの？・・・私のせいだ・・・。」と自分を責めていました。でも今は生まれてくることは意味がある。病気を持ってきたことも意味があるんじゃないかと思いました。いつまでもマイナスにうじうじ考えるよりも、プラスに前に進む強い親のほうが、子供はきっと安心すると思うし、「頑張って元気になろう！！！」と子供も戦う力が出てくると思いました。

私が落ち込んでいた時、友達（病院で知り合ったお母さん）は、「子供はね、親を選んで生まれてくるんだよ。そう思うと愛しくなるよ。」と私に教えてくれました。こんな時に元気になる言葉をかけてくれる友達は、子供がいなかったら会うことはなかったと思います。子供を通して人の温かさを実感し、夫婦力を合わせる事。協力してくれる親・姉・妹の有り難さ。そして命の大切さを教えてくれていると思いました。

これから先辛いことはたくさんあると思うけど、私はどんな時でも目をそむけず現実をしっかり見て、受け入れ、子供を支えていきたいと思っています。まだまだグレン・フォンタン手術と先は長いですが、希望だけは捨てずに今を生きて、家族みんなと一緒に頑張っていきたいと思っています。